

備陽史探訪

第47号

発行

備陽史探訪の会
福山市多治米町5-19-8
TEL(0849)53-6157

会長辞任にあたって

前会長 神谷 和孝

桜花爛漫のこの頃、会員の皆様、お褒り御座居ませんか。

先日、皆様のお手許に届きました今年度の総会の資料ですすでに承知していただけているとは思いますが、此度、十年間坐らせていただいていた備陽史探訪の会の会長の座をおりさせていただくことになりました。二月十一日の当会十周年記念行事の講演会や祝賀会の席で会長として皆様方に御挨拶をしながら(その時点で私の心の中ですでに会長を辞任する気持が強かったものですから)創立時のこと、会員の皆様の協力を得ての諸行事などが次々に胸に去来して感慨深いものが御座居ました。

多勢の参加者を得ての講演会、祝賀会に臨みながら、僅か四、五人から発足した備陽史探訪の会が、これ

だけのことが出来る会までに発展したのだと思うと、喜びで胸にジーンと来るものがありました。この喜びは私一人だけのものでなく、今までの会の発展に活躍、協力してこられた方々共通の喜びと確信しています。創立以来十年間で私自身、色々のことを勉強させてもらいました。人が一丸となって協力しあう美くしさ、利益を追求しない協力の貴さ、備陽史探訪の会の発展はまさに協力のたまものと言えましょう。

私はスカットした気持で会長の座をおりられたことを嬉しく思っています。

この十数年、行動を共にし、会の中では私の女房役を気持よく徹し切ってもらった田口氏も地方史の研究者としてその座を固めてこられたし会の活動を通して頭を打ち打ち人間として大きく育ってこられたし、この田口氏に会長の座をおまかせすることに安堵しております。

会長の座を辞したからと言って、

決して会を去るわけでなく、一会員として会の発展に協力していきたいと考えております。今後とも、今までに変わらない御交誼をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

会長就任にあたって

会長 田口 義之

「石の上にも三年」と申しますが、当会も創立以来十年の歳月をへました。

一口に十年と申ししましても、幾多の試練をへてきたわけでして、神谷先生のご苦勞は計り知れないものがあつたと思います。

思いおこせば私と神谷先生との出会いは二〇年近く前のこと、私がまだ高校生だった頃のことです。友達五人と歴史サークルのことで御自宅をお訪ねすると、初対面の私達を心よく迎え下さり、お互いの夢を語り合ったものです。

以来その時の夢の実現に向けて、共に歩んで来たわけです。

お互いの夢が実現したかどうか、先生は創立十周年を区切りとして会長を退き、私にバトンタッチされる

こととなりました。

先程、二〇年前の夢と申しましたが、その時語り合ったのは、在野の歴史グループを作り、お互いの修練の場とすることでした。

歴史グループは「備陽史探訪の会」として実を結び、去二月盛大な創立式典を行ない、一つの夢は達成されたかのようです。

しかし、これで私達の夢は終わったわけではありません。まだまだ大きな夢が残っているのです。

多忙にかまけて、つい忘れがちになりますが、備探の会創立の頃は少ない仲間でしたが、多くの夢を語ったものです。古代山城の発見もありました。市民向けの史跡ガイドブックの発行も残っています。

私は、会長就任にあたり、このような創立当初の夢を大切にしたいと思っております。

又、神谷先生がいつも口にされていた言葉

「楽しい会にしよう」

「誰でも参加できる会にしよう」

を座右の銘として、皆さんと共に歩いて行きたいと思っております。

備陽史探訪の会

十年の歩み(一)

副会長 七森 義人

昭和六十一年

二月二十三日 総会・記念講演会

「吉備の中の備後」間壁忠彦先生
参加七十三名

三月十六日 「高山城跡探訪」末森
清司担当 参加三十一名

五月五日 第四回親と子の古墳めぐ
り(神辺町国分寺周辺) 参加五六
九月十四、一五日 一泊旅行「宇佐
国東半島の旅」 参加二十三

十月 「金光町の史跡めぐり」 吉
田、後藤担当 参加三十二名

十月十九日 座談会「水野勝成」
参加二十六名

十二月七日 「初冬の河佐峽に戦国
の面影を訪ねて」城郭研究部会
参加三十一名

昭和六十二年

二月一日 バス例会「小早川氏の文
化財を訪ねて」末森清司 参加四
三名

二月二十二日 総会・記念講演会
「太閤検地と備後」青野春水先生
参加四三名

三月二十二日 坪生町の史跡めぐり
後藤匡史 参加三四名

四月五日 城下町福山の姿を求めて
種本・吉田・森担当 参加四一名

五月五日 第五回親と子の古墳めぐ
り(駅家町方面) 参加一〇一名

五月三十一日 バス例会「御調町の
史跡めぐり」住貞義量 参加五五

六月二十一日 バス例会「甲奴郡の
史跡めぐり」武島種一 参加五二

七月十九日 城研の集い 参加二〇

八月一、二、八、九日 入門古墳時
代の考古学 於サントーク

「古墳時代とは」神谷和孝
「古墳発生前の墓」加藤光臣

「広島島の古墳」古瀬清秀
「古墳時代の人々の生活」網本善
光。 参加延一二三名

九月二十日 バス例会「吹屋、成羽
史跡めぐり」神谷和孝 参加三〇

十月十日、十一日 一泊旅行「津山
のんびり例会」 参加三五名

昭和六十三年

二月二十一日 総会・記念講演会
「博物館について」松下正司先生
参加三十七名

三月六日 バス例会「三原史跡めぐ
りパートⅡ」末森清司 参加五四

五月五日 第六回親と子の古墳めぐ
り(赤坂町方面) 参加一〇三名

五月十五日 バス例会「備北の宮氏
を訪ねて」武島種一 参加四七

六月十二日 バス例会「井原史跡め
ぐり」後藤匡史 参加四八名

八月二十一日 スライド上映会「中
国の古都を訪ねて」堤勝義 参加
一六名

九月二十五日 歴史講演会「戦国大
名字喜多氏について」立石定夫氏
参加三三名

十月九、十日 一泊旅行「近江路を
訪ねて」神谷、後藤、小林担当
参加三三名

十月三十日 バス例会「備前宇喜多
氏を訪ねて」立石定夫氏 参加五
九名

十一月二十日 バス例会「安芸郡山
城を訪ねて」末森清司 参加四七

十二月十八日 忘年会 於松之家
講演「備後の武将」田口義之
参加三〇名

平成元年

二月十九日 総会・記念講演会
「博物館をつくる」丸山茂樹先生
参加二十三名

三月十九日 バス例会「御調八幡宮
と久井町の史跡めぐり」末森清司
後藤匡史 参加四十二名

四月十六日 バス例会「上下町の史
跡めぐり」赤追敬三先生
参加四十七名

五月五日 第七回親と子の古墳めぐ
り(加茂、駅家町方面)
参加一七名

五月二十一日 バス例会「高野町の
史跡めぐり」武島種一 参加四七

九月二十三、二十四日 一泊旅行
「山陰杉原盛重紀行」立石定夫先
生 参加二七名

十月十五日 バス例会「塩飽本島紀
行」佐藤秀子、神谷和孝、後藤匡
史 参加四九名

十一月五日 バス例会「吉備路古墳
めぐり」古墳部会 網本善光
参加四九名

十一月十二日 歴史研例会「田尻町
の史跡めぐり」種本実 参加十六

十二月三日 山城歩きパートⅠ「相
方城と亀寿山城」田口義之 参加
三十五名

十二月十七日 平成二年度忘年会
於良縁閣 参加二十一名

(おわり)

会報四八号原稿募集
。原稿用紙一〇枚以内
。六月末までに事務局へ

備陽史探訪の会 十周年記念行事報告

二月十日(土)午後役員集合、翌日の準備(於ニューキャッスルホテル)

同日午後六時、高島忠平先生(講師)来福。神谷会長、田口副会長出迎。蔵王町の「五丈原」にて夕食接待。松下正司氏も同席。講師はニューキャッスルホテルに宿泊。

二月十一日(日)天気 曇後晴

正午 神谷会長、篠原芳秀氏、松下氏と共に高島先生と昼食。

午後一時、役員集合(県立博物館会議室)

午後三時、記念講演会(県立博物館講堂) 聴衆三百四十名。

神谷会長挨拶 松下所長挨拶の後記念講演。

「吉野ケ里遺跡と邪馬台国」講師 佐賀県教育庁参事

吉野ケ里遺跡発掘責任者

高島忠平先生 田口副会長挨拶。

午後五時半。祝賀会受付開始(司会網本善光氏)

(福山ニューキャッスルホテル バラの間)

午後六時 開会 約九〇名出席 式次第

一、司会者の言葉

二、挨拶(神谷会長)

三、祝辞 福山文化連盟会長

県立草戸千軒町遺跡調査研究所長

県立歴史博物館副館長

松下正司殿

福山文化連盟会長 荒木計三殿

四、来賓紹介(田口副会長)

五、祝電披露

六、記念品贈呈(栗田実行委員長)

神谷会長、田口副会長、七森義人氏へ(創立当初よりのメンバー)

七、乾杯(倉敷考古館々長間壁忠彦)

八、歓談

九、吟詠(甲斐声水先生)

祝吟 「祝賀の詞」

十、余興

十一、挨拶(田口副会長)

午後八時散会 司会 山口哲晶氏

(来賓御芳名) アイウエオ順

青野春水(広大教授)

荒木計三(福山文化連盟会長)

沖野百合雄(広島備前歴史研究会)

甲斐声水(吟詠声水会長)

鐘尾光世(福山城博物館副館長)

神谷百合子

佐藤靖雄(文化連盟事務局長)

下津間康夫(草戸千軒調査研究所)

鈴木康平(経済同友会福山支部長)

高島忠平(佐賀県教育庁参事)

立石定夫(元福山市長)

中村秀臣(福山リビング新聞社)

平井隆夫(福山城博物館友の会々長)

福井万千(県立博物館学芸課長)

藤木英太郎(本山町郷土史会)

間壁忠彦(倉敷考古館々長)

松下正司(草戸千軒調査研究所長)

村上正名(就実女子大講師)

森本繁(歴史研究家)

山上久夫(福山城博物館友の会理事)

以上

つづり方教(狂)室

パートⅢ

後藤 匡史

平成二年三月例会は、河内町の史跡巡りである。

安芸国古利、真言宗別格本山竹林寺をメインに平安時代の詩人、参議小野篁ゆかりの地、松ヶ岳城跡、杣木地蔵等……

帰りのバスの中では、いつもの様につづり方狂(教)室、パート三

。末森さんが、山城調査の時、子供を連れて山を歩いていて、

其の時、井戸に落った

そこに蛇がおった

子供ー親父どこじゃー(蛇)
親父ーここじゃー(蛇)

。この町は河内町

それでは、おみやげを河内(こうち)帰ろう。

。篁ーその方、罪により隠岐へ流す

オーノ (小野)

。この寺のいわれを知っているか

それは云われん

。末森さん道はどっち

そのの燈ろうの所を通ろう

。山門の仁王を見て

誰だ、屁を放ったのは

仁王かー(臭う)

山城志原稿募集

。テーマは歴史に関するもの。

。原稿用紙二〇枚前後

※七月末までに

事務局まで

延喜式にみる 備後の神社

堤 勝義

一、はじめに

延喜式に載せられている備後の神社について、歴史的背景をふまえて書いてみたい。

引用する資料は、『増補国史大系』吉川弘文館・昭和四十七年四月）所収のものである。

二、備後の神社

延喜式巻十、神祇十、神名下に載せられている備後の神社は十七座小である。以下神社をあげてみます。

安那郡二座並…多那伊奈太伎佐耶布都神社、天別豊姫神社。

深津郡一座小…須佐能袁能神社。

奴可郡一座小…速比都賣神社。

沼隈郡三座並…高諸神社、沼名前神社、比古佐須伎神社。

品治郡一座小…多理比理神社。

葦田郡二座並…賀武奈備神社、国高依彦神社。

甲奴郡一座小…意加美神社。

三上郡一座小…蘇羅比古神社。

恵蘇郡一座小…多加意加美神社。

御調郡一座小…賀羅加波神社。

世羅郡一座小…和理比賣神社。

三谿郡一座小…知波夜比古神社。

三次郡一座小…知波夜比賣神社。

ちなみに安芸国は三座並で、佐伯郡二座並…速合神社、伊都伎嶋神社。

安芸郡一座大…多家神社です。

タケイナタキサヤフツノ神社は現福山市加茂町山野字原谷の多那伊奈太伎佐耶布都神社に比定される。

祭神は「神社明細書」によると、創素盞鳴命奇稻田姫を奉祀。また、その他の諸説として、剣と稲田氏の祖伊奈多宿禰命、剣と尾張連の祖建稻種命、剣と稲田姫命等がある。

アマワケトヨヒメノ神社は現深安郡神辺町川北の天別豊姫神社に比定される。明治以前は神辺大明神と称した。また「水野記」には「甘濃殿（かんのび）大明神とある。

祭神は豊玉姫命・速進雄命（ハヤスナノオノミコト）・事代主命・吉備津彦命・火之加具土命である。

主祭神の豊玉姫命は、海神豊玉彦命の娘で、当地方がかつて穴海と呼ばれる海水の湖沼地帯であったことにかかわりあるものと思われる。

ちなみに、豊玉彦命は額の沼名前神社に、豊玉姫の夫の彦火火出見尊は庄原市の蘇羅比古神社に祀られている。

スサノオノ神社は現芦品郡新市町戸手にある素盞鳴神社に比定される。

近世（江戸時代）までは、牛頭天王社・天王社・天王神社等と称し、明治になって素盞鳴神社に改称した。

祭神は素盞鳴尊・稲田毘売命・八王子命である。須佐能袁能神社を、天神社（福山市蔵王町）、素盞鳴神社（深安郡神辺町）、王子神社（福山市王子町）に比定する説もある。

享保十六年（一七三一）に金剛峰寺釈迦文院維宝が記した「備後州品治郡早苗山天竜院天王寺祇園社祠記」には延喜式神名帳須佐能袁能神社是也としている。

タカモロノ神社は現福山市今津町にある高諸神社に比定されるが、「福山志料」はこれを否定している。

祭神は須佐之男命・剣比古神で、近世には剣大明神と称した。

寛保元年（一七四一）に福山藩儒者伊藤長英が書写した社伝によれば、天武天皇白鳳五年に新羅王・王子・從者の三人が爆風雨で難破し今津村に漂着した。新羅王の死後、村長田盛の夢に王が現れ、自分は素盞鳴尊であり、自分の剣を祀るように告げたため、王子の死後、田盛が剣大明神・王子祠・武祠の三社を祀ったのに始まるという。

ヌナサキノ神社は現福山市瀬戸町にある沼名前神社に比定される。

祭神は大綿津見命・素盞鳴尊で、明治八年に祇園社と境内社の渡守社が合併し、沼名前神社と改称した。

祇園社と渡守社は、かつては別々の場所にあった。祇園社を「渡隅国社」に比定する説もある。

ヒコサスキノ神社は現福山市瀬戸町にある彦佐須岐神社に比定される。

祭神は「神社明細帳」には彦火火出見尊と書いているが「沼隈郡誌」には、吉備海部の直の祖彦狭島命を祀りしものといひ、吉備津彦命の同母兄にあたる。

カムナヒノ神社は現府中市出口町にある甘南備神社に比定される。

祭神は事代主神・大国主神・少彦名神・竜王神である。賀武奈備、神南備、神辺とも称した。甘南備とは神のいる神聖な場所の意味で、三室と同義である。

竜王神を祀っていることから、雨の神としても知られ、毛利氏が祈雨したところ効験があったので、能大夫、役者、楽人を呼び種々の芸を奉納している。

カラカワノ神社は現三原市中之町にある賀羅加波神社に比定される。

祭神は天太王命・瀬織津比咩命・

スサノオノ神社は現芦品郡新市町

ヌナサキノ神社は現福山市瀬戸町に

天鈿女命である。社名は付近を流れる于川（現和久原川）によるとも、朝鮮の加羅に由来する渡来系ともいわれる。

和氣清麻呂の姉法均尼が備後国に配流された時に、柞原郷の加羅河御廟を拝したという。

ニヒツヒメノ神社は現比婆郡西城町西城にある爾比都売神社に比定される。

祭神は埴山毘売神・金山毘古神・大山祇神である。「芸藩通志」はもと、にひつ山とも称した久代村の高野権現山に鎮座していたのではないかと推定している。

ニヒツには朱砂の意味があり、神功皇后に赤土を献上した爾保都比売命と同一と考えられ、朱砂の発掘に携わる人々や産出地の守護神として祀られたものと思われ、高野権現山も朱砂を産出したという。

江戸時代には所在が不明で、文政七年に現社地に建立、明治四十三年に爾比都比売の比の字を除いて爾比都売神社とした。

オカミノ神社は現甲奴郡総領町稲草にある意加美神社に比定される。

祭神は高麗神・吉備津彦命である。降雨の神で、後に吉備津彦を合祀。明治以前は意加美吉備津彦神社と称

し、明治になって意加美神社と改称した。

田総十二カ村（稲草・木屋・知和・太郎丸・安田・抜湯・有田・下領家・中領家・上領家・五箇・亀ヶ谷）の氏神で、昔からこれらの村々には落雷がなかったという。

ソラヒコノ神社は現庄原市本村町本字鍛寄にある蘇羅比古神社に比定される。

祭神は天津日高月子穗々出見尊・神倭伊波礼毘古尊である。

鍛寄山麓に鎮座し、周辺には鍛寄遺跡や鍛寄古墳群がある。社名は、日子穗々出見尊を「そらつひこ」と呼んだことに由来するといわれる。輦の沼名前神社の大綿津見、娘の豊玉姫を祀る神辺の天別豊姫神社、そして豊玉姫の夫を祀るのが蘇羅比古神社であり、海神一族の神社として特長的である。

タカノカミ神社は現比婆郡口和町向泉にある多加意加美神社に比定される。

祭神は高麗神である。最初は八国見山に鎮座しており、八国見大明神と称したという。

ワリヒメノ神社は現世羅郡世羅町本郷にある和理比売神社に比定される。

祭神は稲田比売命である。元は寺町にある康徳寺古墳や宇山祭祀遺跡付近の寺町八幡神社の地にあったという説もある。

チハヤヒコノ神社は現三次市高杉町にある知波夜比古神社に比定される。

祭神は日子穗々出見尊・豊玉毘売命である。千早彦・高杉大明神とも称した。

双三郡三良坂町三良坂にも同名の神社が所在し、式内社の比定をめぐって争っていたが、明治になって現神社に比定される。

祭神は天鈿女命・布努豆怒命で振社とも称した。神主や巫女の着る上衣を千早といい、姫ヶ岳の姿が千早に似ているところから神社名ができたとみえる。布努豆怒命は三次郡布努郷の祖神といわれ、産土神といわれる。

備後一宮として知られる吉備津神社や糸碕神社、御調八幡宮は延喜式の中にみることが出来ないで、これ以後に出来たものと考えられる。

一宮制の成立については種々の論文があり、論点もわかれていて、ここでは言及をしない。ただ、安芸

の式内社の中で、厳島神社が安芸一宮になっているのに、備後の式内社

の中で、備後一宮になっている神社がないのはどうしてなのか。また、機会があれば書いてみたいと思う。

吾がおもひ集いし人の同じなる
心ふるさと尋ね歩きは

いにしえを尋ねて学ぶ会あれば
吾れが心の安らぎを得て

伊勢丘 木曾

西城にて

山門に立ちし瞬時を嵐きて
白く舞い来る視野になき花

山城めぐりにて

相方城址の大ききみじの木に
よれば朱のさなかに

置く身のもゆる

会友等「河内竹林寺」へ着き
しならん

不参加悔いしつつ体温計る

内海 伴江

竹林寺紀行

参議、萱は何処に

小島袈裟春

庄巻は、何んと云つても県の重文「紙本著色竹林寺縁起絵巻」であつた。

国の重文「本堂」もそれなりに見事な建物ではあったが。……私しはずっと以前、新聞でだったか案内書でだったか良くは覚えて居ないが、あの萱葺き屋根のまゝで、やゝ荒れた感じの写真を見た事があつた。そして「竹林寺」と云う寺の名が何やら面白く……と云つても決して学問的な事ではなくて、ユーモラスな感じ、つまり竹林の中から、一寸法師が、ちょこちょこと現われると云う……はら、ちんちん何とかの……。無論、館林市の茂林寺の文福茶釜や千葉の証成寺理髪やしとかを下敷きにしての事であるが……。事実竹林寺には立派な、竹林、があつたが出て来たのは、一八六センチの大男であつた？……この件は後で書く……。まあそう云う訳で、何んとなく心の温まりそうな、萱葺き屋根の建物を想像して居たのであるが、修理成つた本堂は、確かに美しくはあつたが、ま

るで赤の他人の様によそ行きのとり済した顔で私しを迎えたのであつた。まあこの屋根が創建当時の再現であつたとは、分つたが。それに説明書の「棚葺」と云う字は何んと読むのであろうか「柿葺」ではなからう、字まで私しを寄せ付けないとは……。その上両脇の十王堂と護摩堂は萱葺きの屋根に錆びかけた鉄板がかぶせてあつて何んともちぐはぐで気の滅入る事であつた……。更に又庫裡の屋根が赤瓦とは。住むのが仏様ではなく生きた人間だから、と云うかも知れぬが庫裡とて伽藍の一つである事を忘れてもらつては困る。しかしまあ、これは天然色カメラで見るとあらであつて、昔の様にモノクロカメラか……。そうだ雪の積つた時に来るべきかも知れない。私しは寒い十王堂の濡縁で昼食をとり乍ら時々眼を閉じて、屋根や周辺の木立に白雪の降り積む、竹林寺の情景を想像して見たのであつた。……熱燭？はなかつたのであるが。……さてぐちはこの位にして、冒頭の竹林寺縁起絵巻に戻る、この絵巻の内容については後廻しとして、絵巻が県の重文指定となる所以は「書絵」の立派さと共に画かれた時期が、室町期と推定される事であらう。……私しは絵巻を

拝観して、室町期よりもっと以前ではないか？、と考える、勿論その学問の大家が鑑定したものに対して、私し如きが異論を唱える事は許さるべき事ではないが、まあ私しは只の素人の自由人ではあるし、お叱りを受けても生活に困る訳でもないの以下は素人の迷論としてお読み捨て頂ければ幸いです。……私しが、室町期より古いと云うのは、絵や字の学問的鑑定ではなくて、三本の掛軸と、県重文絵巻と、寛永十五年（一六三八）とはつきりした画期の模写絵巻との比較において云うのである。……〇模写絵巻について……この絵巻は約三五〇年を経たものだがまだまだ絵も字もしっかり残つて居て眼のわるい私しでも充分に觀賞出来る、かすれも色あせも極く僅かで書絵そのものから年代を窺い取るのは難かしい、「余り聞き見はしなかつた」と云う意見もあるが、あの巻頭の模様紙のすり減り方に注意され度い、江戸期はまだまだ神仏信仰は盛んであつた、この絵巻も充分に利用されたに違いない。それでも書絵部分はあの程度の傷み方なのである。……〇県重文絵巻について……この絵巻は字も絵も相当磨耗して居て、あせたと云うか、かすれたと云

うか、肉眼では見えない所もかなりある。古いので当然、との御意見もあるうが、室町期を高校教科書によつて紀元一三九二年からとすると、寛永十五年まで約二五〇年しか経つて居ないのである。この意味が分つて頂けるであらうか。……そして、何故に寛永十五年に模写されたかを考えて見よう、勿論それまでは寺が衰えて居て資金もなかつたであろう事は、末森講師の御著作のパンフで分かる、そして元和五年（一六一九年）に浅野侯が入国後その援助を受けての事であろう事も想像される、しかし何んと云つても最大の理由は、この寺の創建の由来を記す、まあ御墨付き、と云つても良い縁起絵巻が現在見る様に不鮮明になつて居た事によるからであらう。……この絵巻が磨滅しては寺の存在の意味が無くなつてしまふのである。……まさか二部を必要とする程、参詣者が増えた訳ではあるまい。模写完成後は「県重文絵巻」は秘蔵され、もっぱら模写絵巻が使われたに相違ない、前に書いた如く模写絵の巻頭模様紙を見ればそれが分かる。……そして「県重文絵巻」の傷み方は寛永の頃と現在と余り差はないのです、何故か。「それも三五〇年経つてはいないか」

との御意見もあろう、だが県重文絵巻の模様紙に注意されたるうか、……本文の磨耗と比べ不釣合に鮮明であつた事に……。……まるで近年修理をしたが如く。私は念のため河内町の教委に電話をして、県重文絵巻の巻頭模様紙の修理をしたか聞いて見た。返事は予想した如く江戸期以来修理の記録はない、との事であつた。

寛永模写の時、県重文絵巻も巻頭の模様紙を修理してそのまゝ宝物として秘蔵されたと考える。……○三本の掛軸について、この掛軸は絵巻の中の絵の部分のみを転写したもの、との事だが、もう使い物にならぬ位磨耗が激しい、寺が榮えて来て一般の善男善女の参詣が増えたと、まあ一般の人で字の読める人は少なくなつたろうし、それに巻物では大勢の人を対象に縁起を説くのは不便である、三軸を並べ掛け文章を空んじた寺僧が得意気に説明して居る光景が眼に浮ぶ。磨耗の激しいのも当然である。……この軸は江戸期の作成と云われて居るが、まあ寛永模写絵等とコンピュータ等と比較の必要があろう、私は前記の理由でもっと以前だと思つて居る。……さて以上の所見をもとに、絵巻の成立年代を想定すると、応安四年（一三七一年）の今川

了俊著「道ゆきぶり」が重要な意味を持つて来る「小野篁の故郷とて、たかむらとも小野とも申しはべるとかや大なる山寺あり……」と。この大なる山寺は単に口伝のみにて「大」を、なしたのであるうか。……末森講師のパンフにも、この頃寺領五〇〇石余とある、信ずべきである。時代はずっと下がるが慶長五年（一六〇〇年）毛利輝元が沼田本庄の名刹、

楽音寺への施入が寺領一〇〇石余、山林及び宅地一町四反四畝と比べるゝ竹林寺の寺領五〇〇石は並々ならぬものがある。私は、道ゆきぶりの当時に、縁起絵巻は成立して居たと思う。そう考える方が自然である。永正八年以前に火災があつても、何も持ち出せなかつたとは考えにくい。……十一世紀始めには成立して居た「篁物語」と「宇津保物語」とをつきまぜると、勧学院の学生「篁」が現われる。地藏信仰が発展した「地藏十王經」は偽經とも云われるが、鎌倉初期には成立して居たと、云われるから先の「篁」との習合は容易で、一言で云えば鎌倉全期間を通じて絵巻の成立に不都合な時はない。沼田新庄、小早川庶家の興隆時に生半可な口伝で寺領五〇〇石になれる訳はないではないか。……取扱いい方に

もよるがあの絵巻の磨耗から考えて、百年又は百五十年以上を逆のぼれると私は考える。……さてこの辺で「参議篁」を探さねばならない。……宗教上の教議や縁起の事を国語とか科学の一般的な学問で考察する訳には行かない。末森講師から頂いた、村上正名先生の文化財解説書の中で先生は「信仰の対象は、寺の所伝や歴史の変遷に位置付けての理解が大切」と云われて居る。「荒唐無稽」などと一蹴して居ては、

何んのために歴史をやつて居るのか分らなくなつてしまふ。……すでに前文の絵巻成立の所で「篁」の名を出してしまつたが、それはそれとして、先ず史実の篁を見る。権威ある文書は皆、嵯峨天皇に仕え、漢詩の「陵雲集」を編集し参議まで昇進した小野岑守の子として居る、しかしその統柄になると、長男とか次男とか単に子、とか一様ではない、家系も飛鳥期の遺隋使、小野妹子の子孫と云うが家系の継承は不明である、小野道風、小野好古、小野小町等皆この一族とは云うがその統柄については書々で異なる、ただ琵琶湖の西岸、坂本の北の小野神社のある辺りがその本貫地らしい事が一致するのみである。まあ簡単に云えば推察の入り込む余地は充分に有るのである。……次に絵巻の「篁」を見る、彼は故郷を出て、貧苦の学生として勉強に励み乍らも、右大臣西三条良相の娘を見染めて、申文を作成し自から右大臣に奉呈した、とある、右大臣の名前には違いはあるがその申文が「本朝文粹」と云う書に残つて居ると云うから、この所は史実と云える。私はこの文が読みたくて福山市民図書館に行き、係員に三十分以上探して頂いたが見付け出せなかつた、しかし帰りに借りた岩波大系の「篁物語」の中の補注にその全文が載つて居て一時は喜こんだが良く見ると、ルビが全くない、私の学力では解説困難で大体の意味と、全文字数一七七字を数えたのみであつた。まあその他の事は成立の所で書いた如くであるが。「篁」の出生地が安芸国とはどこから来たのであろうか。……私はは考える、末森講師の資料にある、九五一一年の風来坊の僧の事を、彼は風来坊か……いや、入野の出身であろうと。京都に出た少年は仏教修業の傍、当事評判の、篁物語や宇津保物語を読んだであろう、そして何時しか自分と同様の境遇の作中人物の中に自からの姿を投影して行つたのであろう。そう云えば、宇津保

物語の作中人物は名を「トウエイ」藤英と云う。まあそれはとに角、末法の時（一〇五二年）が近づきつつある当時、一心に、地藏本願經（十王經の成立はもう少し後）を読む彼は、突然、神秘的啓示を受けた。彼の心眼に、「簗」が現れたのだ。「お前は私の生れ替りである。お前こそ私の本願を継承せねばならぬ」と。……彼は「簗」の化身として故郷に戻ったのであった。……

私は二月の中頃、さる御方から、三月四日の探訪会には奥様（私の家内の事）共々「簗」に会いに行きましょうと御誘いを受けた、私の竹林寺に関する知識は冒頭に書いた通りだったので驚いて広島県の名書を調べると何人と簗の出生伝承があった。実は私は、簗に関する本（集英社日本の舞台）を以前から持つて居て、それには史実の簗が書いてある、身長一八六センチともあった、だがその出生地が安芸国にもあるとは知らなかった。さる御方に深く感謝すると共にその御便りの一部を題名に頂く事にしました。御寛容の程を。……

竹林寺の近く遊歩道を登り切った所に立派な石塔が建って居た、河内町教委の労作とあったが、あれは何

んの意味の塔なのであろうか、かなりの費へだったと思うが、竹林寺の宣伝の為だ、と云うなら、十王堂、護摩堂、庫裡、山門等の屋根をもう少しましに、との気はなかったのであらうか、町の重文だと云うのに。……それに何んだ……観音霊場御詠歌の下に「小野簗」と彫ったのは……簗が御詠歌を作ったとでも云うのだろうか、……まさか……どちらか消すべきであらう。

小野簗の歌ならあそこは、古今和歌集の中の、若くして死んだ妹のための哀傷の歌……泣くなみだ雨とふらななみだ渡川

水まさりなばかへりくるがに……これがふさわしい。この歌の意味はいや、止めよう、私しなどの解説より皆様の方が、ずっと詳しい筈なのだから。……

六月例会 御幸町史跡巡りご案内

担当 後藤 匡史

福山市御幸町は、神辺と駅家の中程、加茂川のはと

初夏の香り、田園地帯の続く中、古い家並みを残す御幸へどうぞ

高田氏の碑（下岩成）室町時代初期

伊予河野水軍の武将として又戦国時代高田豊後守重綱は毛利、小早川隆景の武将として天正十年（一五八二年）備中高松城に出陣

詩人木下夕爾（上岩成）御幸町の出身、生家有り家業の薬局を継ぐ生家の横歌碑 その他：府中高校、沼隈郡中山南上横倉 福泉坊境内墓稲付山、友人に作家井伏鱒二、書家桑田三舟

正戸山城跡（御幸町正戸）南北朝時代より戦国時代に掛けて備後の要害神辺城の支城として宮氏、昭和五年昭和天皇大演習に御幸、御幸町の名の由来

ゆるぎ地蔵（御幸町正戸）新刀ためし斬り妊婦を殺しその時グラグラと音がしたので周囲をふと見ると地蔵尊がわしが云わぬが汝云うな……と恐ろしくなった武士は逃げ帰った その先は……

募集要項

- 。期日 六月十日（日）午前八・三〇
- 。福山駅裏 キャッスルホテル前集合
- 。会費 会員一八〇〇円 非会員二〇〇〇円（資料代、バス代含）
- 。定員 四五名
- 。申込方法 事務局まで電話かハガキで、定員に達し次第締切ます。
- 。備考 弁当持参、雨天決行

歴史研活動計画

種本 実

昨年度は古寺巡りを四回行い各ご住職よりお寺にまつわるお話を拝聴することができ参加いただいた方には好評でした。

今年度も魂の安よぎの場として近郊の古寺、神社を巡る計画です。ところで、今日各地で文化財の保護運動が進められ、「歴史民俗資料館」が設立されつつあります。

そこで今年度は資料館の見学も計画していますので、各地の文化財保護運動の実態及び民俗遺産の見学等の関心の有る方のご参加をお待ちしています。

・新市町の民俗資料館見学とさつきが美しい安楽寺（府中市）を訪ねる。五月十三日（日）午後十二時四五分福山駅釣人像前に集合。交通費千円程度各自負担。参加自由。

・備後の三大社の一社と伝わる府中市の南宮神社とその別当寺の神宮寺を訪ねる。資料館の公開が当日あります。

六月二十四日（日）集合場所、時間、交通費は前項（五月十三日）と同じ。参加自由。

第八回 親と子の古墳めぐり

コース紹介

福山市駅家町北部にある服部大池周辺は、古墳時代後期の注目すべき古墳が集中する地域です。中でも山の神古墳、北塚古墳、大迫古墳、二子塚古墳は県史跡に指定されており、狭い地域で四基も県史跡に指定された古墳があるのは、広島県内ではこれだけです。

注目すべき古墳のうち、服部大池の東側に位置する二塚古墳と山の神古墳は時間の関係で今回のコースには入れません。
ではコース順に古墳を紹介していきます。

北塚古墳

家形の石棺が露出しています。非常に硬い花崗岩を加工し、組み合わせたものです。一年余り前に県史跡に指定されました。

発掘調査がおこなわれ、石棺の下に砂利石が敷かれていたことなどから原位置をたもっているものと判断され、さらに石室などを築くスペースがないことから石棺に直接盛土をしたものと考えられています。また、出土した須恵器から七世紀の第一四半期をくだらない時期に位置付けられ

れています。

観察のポイントは、第一に家形石棺としての全体の造形でしょう。そして、隅々まで丁寧な加工です。ゆるやかな曲線・曲面の多いことから技術の高さを感じられます。考古学的には蓋石の頂部平坦面の幅がかなり広く、縄掛突起が痕跡的であることなどから、家形石棺の形式としては新しい特徴を示しています。現地では石棺の観察とともに、石棺が直接土中に埋められていた古墳であるか否かについても考えてみて下さい。

備後南部地域に三基ある横穴式石室も花崗岩を加工して組み合わせたもので、本古墳はこれより古く、花崗岩の加工技術という面からも注目しなければなりません。

大迫古墳

石垣の続きに横穴式石室の口を開けています。古墳の形は後世に改変されて当初の形状は想像することもできません。石室の中に入って驚かされるのは玄室の石材の大きさです。何とも大きい。よくこれだけの大きさの石を垂直に立て、天井石を架けたものだと思わせられます。ここからは通常の鉄地に金張りしたものでなく、中空の純金の耳環が出ています。そこで、この古墳は金環塚とも俗称されています。

権現塚古墳

横穴式石室の玄室上部が露出し、天井石の上に熊野権現が祭られていることからこのように呼称されています。石室の前半部である羨道も、天井石が取り去られ、埋まった状態でみられます。羨道部の天井も狭く、横穴式石室の中でも比較的古いものと思われる。神社の周囲は木立で墳丘の形状がよく分かりませんが、直径が二十メートルを越す大きな円墳と考えられます。

宝塚古墳

入口付近が埋まっていますが、全長約七・二メートルの横穴式石室が築かれています。持送り気味の側壁で、権現塚古墳と同様に横穴式石室としては古く位置付けられます。

孤塚古墳

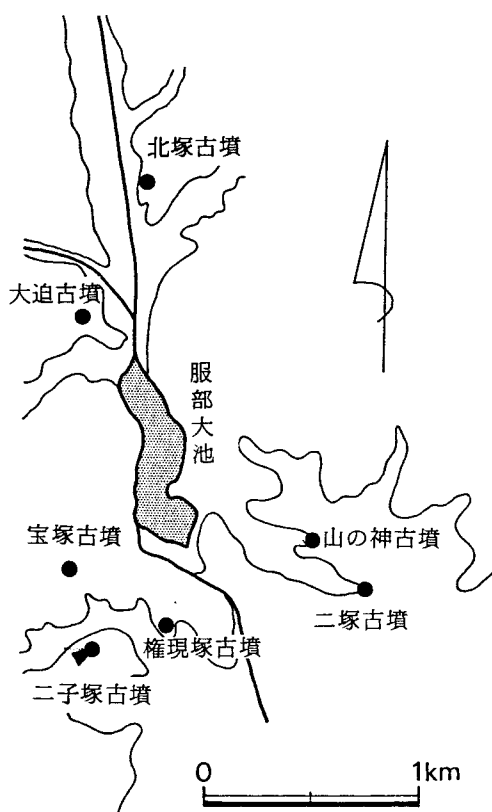
天井石が全て露出していますが、石室内は大半が埋まっています。細長い石室が続く、横穴式石室の一つの形態をみる事ができます。

二子塚古墳

前方後円墳で、全長は四八メートルあります。木立のため全形は分かりませんが、前方部、後円部、空堀などの部分ごとには観察することができ

ます。
後円部に築かれた横穴式石室は全長一三メートルあり、墳丘の全長ともこの地域（神辺町から府中市にかけて）では最も大きなものです。
宝塚古墳と大迫古墳の間の時期に比定されます。

（篠原芳秀）



第八回親と子の古墳巡り

主催 備陽史探訪の会

後援 福山市教育委員会

親と子の、古墳を主体とした古代文化との触れ合いをとうして、子供にたいして歴史に対する関心を抱かせるとともに、文化財に対する正しい知識と正しい取り扱いを学ばせ、併せて郷土に対しての正しい認識を広めさせることを目的として、次のような内容で表記の行事を行いますので奮ってご参加下さい。

一、日時 一九九〇年五月五日(土)
子供の日

720 福山市多治米町五一一九一八
田口義之方

備陽史探訪の会

☎(0849) 5316157

午前八時三〇分 福山駅
南口 釣人の像前集合

午後四時五〇分 福山駅
帰着 解散予定

*当日雨天の場合は翌六日(日)に順延

二、見学場所 福山市駅家町を中心にした古墳群(北塚、大迫金環塚、二子塚古墳等)

三、参加費 ①親子(大人一人、小学生以下一人)五〇〇円
②大人(中学生以上)一人四〇〇円、子供一人三〇〇円

(資料代、保険料等含)
*往復のバス代、電車賃

は自己負担です。

合計八六〇円(大人)

四、参加資格 六歳歩行出来る方、親子以外でも構いません。

五、参加申込 ①申し込み方法

往復ハガキに参加氏名、年令、各々の関係、電話番号、住所を記入の上、左記までお申し込み下さい。

②定員 一〇〇名
③締め切り 四月三〇日
(必着)

六、当日持参品及び服装
④問い合わせは事務局まで

。弁当(昼食予定地の周辺には食堂はありません。)

七、注意事項 ①小学校六年生以下の児童は保護者の付き添いが無ければ参加出来ません。

②当日は、安全について万全の手配はしますが、当日の災害については当会は一切責任は持ちません。

事務局日誌

一月十四日 神谷会長宅にて役員会
終了後新年会 参加十六名
一月二十一日 役員会(於ホーセン)
参加十六名。記念行事について議す。

二月二日 役員会(於ホーセン)
二月七日 役員会(於中央公民館)
二月十日 午後翌日記念行事の準備
参加十二名

二月十一日 創立一〇周年記念行事
(詳細は別記参照)

二月二十六日 役員会(於ホーセン)
参加十二名

三月四日 三月例会「河内町の史跡めぐり」末森氏担当 参加五二名
三月十八日 総会、記念講演会「坂本龍馬といろは丸事件」参加三五

三月二十一日 事務局会議(於中央公民館) 参加六名

四月一日 四月例会「志川滝山合戦の跡を訪ねて」田口会長担当 参加六〇名

四月八日 古墳めぐり下見
帰福後、前会長のごくろうさん会、新会長の就任祝 於養老の滝 参加十六名

城郭研究部会主催

第三九回中世を読む会

。時 四月二〇日(金)午後七時
。所 福山市花園町
。中央公民館1F 応接室
。テーマ 「山内首藤家文書を読む」
。パートⅢ
。会費 無料(但し、初めての方はテキスト代百円必要)
。問合せは事務局まで。

事務局よりお願い

四月30日までに年会費の納入をお願いいたします。もし、未納の場合は退会されたものと見なして、その後の案内等は発送致しません。未納の方は早めにお願ひします。
なお、今年度より、会費納入先が変わりますので御注意下さい。

備陽史探訪の会事務局

720 福山市多治米町

五一一九一八

田口義之方

☎〇八四九一五三一六一五七